

信じ続ける

私の高校生活は、ほぼ毎日部活動をしていました。学校は運動や部活動に力を入れていたので、ほとんど休みがありません。部活がない日は年末年始とお盆休みの2回、年間合わせると一週間程度でした。



高校は柔道の強豪校に入ったのですが、私は毎日の練習についていくのに必死で、試合ではなかなか勝てませんでした。運動は得意な方だと自負していたのですが、上手くいかず、そこで初めて人生の挫折を味わいました。「もう辞めてしまいたい」という気持ちと、「一度始めたことは最後までやり通したい」という気持ちで葛藤しました。

そんな落ち込んでいる私を変えてくれたのは、指導者の先生の言葉でした。「あなたには良いところがたくさんあるから、もっと頑張れば今よりも絶対に強くなれる。がんばれ!」と。その言葉を信じ続け、3年間部活を続けました。結局試合では結果を残せませんでした。その代わりに『3年間続けた大きな自信(=自分を信じること)』を得ることができました。

人には良いところが必ずあります。また、諦めずに続けた結果見える(得られる)ものもきっとあります。みなさんには自分を信じ、様々なことに挑戦して行ってほしいと思います。

わかたけ学級 林 ちえ

僕のバスケットボール人生は中学から始まりました。部員は80人以上。チームは「中練組」と「外練組」に分けられ、「中練組」は毎日体育館で練習。「外練組」は毎日外コート。身長138cmで素

Basketball is my life

人の僕はもちろん外練組。泥で汚れたボールを使うので、指先は1年中あかぎれ。ボールと体育着はいつも血だらけ、泥だらけ。先生は、外練組はほったらかし。たまに来てくれたときは「帰れ」と言いに来るだけ。1年生でバスケットボールを教わった記憶はないし、試合なんて出たことも連れて行ってもらったこともありません。でも、僕はバスケットが好きで好きで、授業中イスの下でドリブルをしたり、スキー教室にボールを持っていったり、給食時間に給食を食べずに校庭でバスケしたり、小学校で夜までバスケしたりして、よく怒られました。それでも懲りずに「どうすればバスケができるか」ばかり考えていました。(今思うと、手のかかる生徒だったと思います・・・) そんな僕ですが、高校でも大学で社会人になっても「どうすればバスケができるか」を考え続けた結果、中学校の教員となり、バスケットボールを指導することになりました。人生、何がどこでどうなるかなんて分かりません。どうなるか分からない先のことや、今さらどうしようもない過ぎたことを考えても仕方ありません。なんだかんだ言い訳せずに、目の前のことにもっと夢中になってみてはいかがでしょうか。



1年担当 並木友広

自分が変われば、世界が変わる

『精神的なことを書く。思ったことをそのまま書く。毎日書く。』

これが高校時代、「野球ノート」のルールだった。入部初日から始めさせられたノートは、いつの間にか自分にとってかけがえのないものとなり、現在は24冊目に入った。

当時の監督は元プロ野球選手で、野球で厳しい人生を切り拓いてきた人だった。監督はよく『部活動は修行である。』と言っていた。言葉通り、野球部での生活は修行であり、苦行だった。平日6時間、休日15時間の練習で体も辛かったが、何よりも心が辛かった。

厳しい練習と世の中の理不尽を集めたような経験は、必然的に私たちの目を「自分たちの心」に向かわせた。光を見失い、自分を信じられなくなっていた私は、「続けられれば必ず得るものがあるから」と言われた野球ノートに、想いや考えをすがるように書いた。逃げてしまう自分、他者を思いやることのできない自分。弱い自分と向き合う作業は苦しかった。しかし、続けていくうちに自分の心の変化を感じられた。弱い自分とちゃんと向き合おうとしないから辛くなる。自分の弱さによって生じる心の痛みから逃げてしまうから、他者の痛みもわかろうとできない。知らなかったわけではない考え方だが、ノートを続ける中で経験と強く結びつき、より深い学びとなって私のもとに返ってきた。中学・高校・大学と続けてきた部活動は、体を鍛えてくれただけでなく、自分や仲間と向き合う機会を与え、心を耕してくれた。

今まさに、部活動を通して大切なものと出会おうとしている生徒たちの手伝いができることに、感謝していきたい。

2年担当 山口和真

打ち込む

十数年前、私は中学時代にソフトテニス部に在籍していました。生徒会本部にも入っていて、委員会のある日には、部活に遅れて行くことや行けないことも沢山ありました。そのときの自分は、「今日は、部活時間が少ない」「もう少し遅れて行ってもいいよね」という気持ちがありました。中3の夏、18人の部員がそれぞれ闘った学校総合体育大会の個人戦。2、3回戦目で負けて引退決定。涙は出ませんでした。

高校時代は少し変わって硬式テニス部に在籍。ナイターで遅い時間まで練習できるテニスコート。どれだけ練習しても足りない。うまくならない。だからもっと練習しました。遅いときには、同級生と23時まで練習。夜ご飯もテニスコートの横で食べる。勉強なんかそっちのけ。テスト期間でテニスコートに入れない期間がもどかしい。そんなテニスバカな高校3年間。引退がかかった最後の試合。自分のミスで試合終了。自分なりに一生懸命やってきた2年とちょっと。さすがに涙が出ました。

今私が楽しく、でも真剣にテニスに打ち込んでいるのは、高校時代に本気でテニスに情熱を注いだ経験があるからだと思っています。部活に限らず、習い事や勉強など今本気で情熱を注ぐものがありますか。是非、今日からの中学校生活で情熱を注ぐものを探し、これからの熱い夏を有意義なものにして欲しいと思います。



3学年 東迫 隼平